

 評価のポイント

## CL-1.看護実践能力：ケアする力

## [38-1] せん妄：せん妄の基本的病態生理と回復への援助

**1. せん妄のハイリスク因子にはどのようなものがありますか？**

年齢、認知症・脳血管疾患・せん妄の既往、侵襲度の高い手術、高い重症度、アルコール多飲・依存等がある。

**2. せん妄の多くが見逃されている可能性があります、どのような要因が考えられますか？**

せん妄は、高活動型や混合型に比べて、低活動型せん妄が多い。低活動型せん妄は、興奮などはなく一見落ち着いてみられるため、アセスメントツールを用いなければ、せん妄と判断することが困難なためと考えられる。低活動型のせん妄は、反応が鈍い、無気力、傾眠などの症状がうつと勘違いされることが多い。また、患者が高齢の場合、高活動型のせん妄であっても、認知症と認識される場合がある。

**3. せん妄への介入にはどのようなものがありますか？また、そのポイントを振り返りましょう。**

せん妄への介入は、全身状態のアセスメントから要因を特定し、要因の除去、軽減を目的に行う。せん妄への介入には、身体的な負担や異常に関わる直接因子への介入と、苦痛や不快を与える誘発因子への介入、また、薬理的な介入がある。薬理的な介入の目的は、意識障害や注意障害への対応であり、鎮静が目的ではない。